

特別栽培米への支援を通じた産地の育成

日野農業改良普及所

〈活動事例の要旨〉

江府町の特別栽培米グループを対象に、全国に通用する良食味米の生産と全国に通用するブランド化によって生産者の所得向上を図ることを目的として、生産者との現地巡回や関係機関と連携した生育・食味調査を行い、生育診断の指標を作成しながら食味値向上対策を進めていった。また、低収事例に対し、栽培管理の自己点検表の利用を試み、収量性が改善された。

1 普及活動の課題・目標

江府町が県やJAなどと連携して「奥大山江府町農業活性化プラン」を作成し、水稻部門は「全国レベルの良食味米ブランドへの挑戦」という内容となった。普及所は、このプランの中の「特別栽培米の食味値向上（平成29年目標は平均の食味値85：サタケ社食味計使用）と全国レベルの米コンテストの上位入賞」を目標とし、それによって生産者の所得向上を目指すこととした。

2 普及活動の内容

(1) 食味値向上のための指標作成（平成28年から平成29年まで）

平成26年から平成28年までの生育調査結果を基に水稻生育途中の目標とすべき稲の姿としての指標案を作成し、生産者へ提案した。また、平成29年は、その指標が使えるものかどうかの検証を行い、実用性が確認されたので研修会で報告した。

(2) 現地巡回指導（平成25年から平成29年まで）

6月下旬から7月上旬頃に現地巡回を実施し、そこで普及所と町・JAで生育調査を行った。巡回の終了時には調査結果を出席者へ報告し、生育現状を関係者で情報共有しながら、今後の管理方法を話し合った。また、翌年2月に研修会を実施し、次年度に向けての方針を話し合った。

(3) 全国米コンテスト支援（平成25年から平成29年まで）

例年10月に行う食味値測定会で日野振興センター所有の食味計（機種：サタケRCTA11A）を使用し、生産者が持ち寄ったお米の玄米サンプルを測定した。その場ですぐに集計し、食味値上位のもから、外観品質を考慮して生産者と関係機関が出品物を選考した。

(4) 低収量事例に対する収量向上支援（平成28年から平成29年まで）

グループ内で特に低収量となっていたA氏に対し、栽培管理自己点検表を記入させることを通じて改善個所を気づかせた。また、現地での対話を行い、意識の向上を図った。

3 具体的な成果

(1) 米の食味値の向上（平成29年実績が前年より約2ポイント上昇）

平成29年の平均食味値は平成28年に比べ、約2ポイント上昇した。（表1）

表1 食味値の平均値（単位：ポイント）

品種	平成29年	平成28年
コシヒカリ	84.9	83.3
きぬむすめ	86.5	84.3

(2) 全国米コンテストでの入賞

表2 主な全国米コンテストの受賞歴

年度	品種名	米コンテスト名称	受賞内容
26	コシヒカリ	第16回米・食味分析鑑定鑑定コンクール・国際大会	環境王国部門金賞
	コシヒカリ	第12回お米日本一コンテストinしずおか	入賞（上位75点）
27	コシヒカリ	第17回米・食味分析鑑定鑑定コンクール・国際大会	環境王国部門金賞
28	きぬむすめ	第13回お米日本一コンテストinしずおか	最高金賞（決勝進出） 金賞（上位30点）
	きぬむすめ	第18回米・食味分析鑑定鑑定コンクール・国際大会	都道府県代表お米選手権 金賞
29	コシヒカリ	第14回お米日本一コンテストinしずおか	入賞（上位75点）
	きぬむすめ	第19回米・食味分析鑑定鑑定コンクール・国際大会	都道府県代表お米選手権 特別優秀賞

平成26年以降、全国規模の米コンテストで毎年受賞しており（表2）、特に平成28年には「第13回お米日本一コンテストinしずおか」で鳥取県内初の最高金賞を受賞し、全国的な注目を浴び、江府町報（2017年1月号）のその模様が巻頭カラーで掲載されるなどの盛り上がりを見せた。

また、地元日野郡で行われる「日野川源流米コンテスト」では例年上位にランクされ、平成29年には最優秀賞を受賞した。

(3) 低収事例の収量向上

重点指導を行ったA氏の圃場管理は劇的に改善され、特に低収要因となった雑草害対策が徹底された。平成28年に反収が4俵であったのが、平成29年は9俵と倍以上の収量となった。

4 今後の普及活動に向けて

食味値向上等によるブランド化が最優先課題であり、本来の目的である所得向上が未確立であったので、今後は経営調査を実施し、所得が向上する条件を明らかにしながら魅力ある水田営農モデルを構築し提案していきたい。また、今回の事例に限らず水田農業の担い手の収量向上対策は必須であり、低収量となっている経営体を対象に栽培管理自己点検表を活用し、収量性の改善を図っていきたい。

（執筆者：長戸 竜志）